

# 教員免許状更新講習

## ～長期宿泊体験に生きる豊かな体験活動～

### 報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、8月1日（水）～3日（金）の2泊3日の日程で、教育事業「教員免許状更新講習 ～長期宿泊体験に生きる豊かな体験活動～」を開催した。

この事業は、小・中学校の教員が免許状の更新を行なうことと、豊かな体験活動を講義と実体験の両面から理解することを目的として開催された。参加者は、群馬県を中心として関東近県から47名の参加であった。

本事業の内容は、本所で開発中の体験活動プログラムと実際に提供しているもののうち、学校で活用してもらいたいものを実習として取り入れると共に、研究者・実践者・青少年教育施設など様々な立場から体験活動の必要性の講義を用意し、心身共に体験活動の必要性を実感してもらおうというものである。

<研修の様子>

8月1日（1日目）

1日目はまず、午前中の気温が上がらない時間に農業体験を行なった。近隣にある、生ゴミの産廃を肥料に変え野菜を栽培しているリサイクル型の大規模農場である。新しい農場の形態として、リサイクル工場見学とキュウリの収穫を行なった。なかなか見ることができない貴重なリサイクルの施設に、皆熱心に記録をとっていた。



【リサイクル工場の見学。肥料だけでなく意外なものができるのに驚いていました。】



【収穫体験。班ごとにスタッフが入って指導してくれました。至れり尽くせりです。】

午後は、大学教授として教壇に立つ傍ら、最前線の指導者としても活躍されている東京成徳大学の石崎一記先生より自然体験活動がどのように子どもの変容をもたらすのかという心理学的な側面からの講義をいただいた。そして、実際に赤城の森に出向いてネイチャーゲームを行なった。参加者からは、「気づきがたくさんあった。」「学級でも是非取り入れたい。」「森での活動でこれから始まる豊かな体験活動にわくわくした。」など自然体験活動の効果を早速理解することができた。



【講義「自然体験活動と子どもの変容」。親しみやすくわかりやすい講義でした。】



【赤城の森でネイチャーゲーム。自然に親しみつつお互いの距離が縮まりました。】

## 8月2日（2日目）

2日目は、仲間づくりのレクリエーションを体験した。まずはPA（プロジェクトアドベンチャー）とAAP（あかぎアドベンチャープログラム）についての基礎知識と、学校でも有効な指導のあり方や考え方などを講義した。その後、3班に分かれて子どもたちへの声かけやふりかえりのポイントなど、学校現場に活かせるようにアクティビティをすすめた。どのアクティビティでも指導者の立場からいつのまにか参加者として夢中になってしまう様子が見られたが、アンケートでは「指導を見直す良い機会となった」「自校の子どもたちにも体験させてあげたい」という声が多く、指導のポイントや効果などの理解を高めることができたといえる。



【AAPの実習。人間関係をつくる手だてや指導のポイントを実体験しました。】

午後は、明治大学教授 星野敏男先生より、青少年問題の解決には社会教育が大きな役割を果たしていることや、学校教育と社会教育の明確な役割分担について講義をいただいた。学校だけでなく、様々な教育諸機関と分担し合うことが大切だという感想がみられた。分担が明確化されてスッキリしたという意見も多かった。



【講義「青少年問題と体験活動」学校教育と社会教育の役割が明確に理解できました。】

夜は、営火場において幻灯紙芝居を実施した。演題は宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を短編化して絵本にしたものである。読み手は桜井所長で、読み始めると同時に参加者は皆吸い込まれるように真剣に聞き入っていた。終わってしばらくはおしゃべり一つなく、話の世界に浸っている様子がよくわかった。参加者からとても好評で、アンケートには林間学校に取り入れるたくさんのアイデアを寄せていただいた。



【暗闇で始まった幻灯紙芝居。幕が風で揺らめき幻想的だった。】

### 8月3日（3日目）

午前中は野外炊事で、1日目の野外炊事で収穫したキュウリやナスを使ってカレーを作った。校種ごとに班を組み、教員としての支援の仕方や安全管理などを話し合いやすくした。作る、食べる、片付けるについては、たいへん手早く動きがきれいだった。食後はしっかりとふりかえりの話し合いをしていた。準備や火付けを円滑にするポイントや、校種に応じた安全管理など林間学校で即実践できる知識と技術を身につけられたようだ。



【野外炊事実習。手早い準備と鍋を焦がさないことが時間短縮の鍵であることがわかった。】

午後は「青少年教育施設の役割」と題した桜井所長からの講義だった。具体例を示しながら自然体験活動の奥の深さと学校が関わるべきレベルなどについて熱心に語った。また参加者側の姿勢や反応もすばらしく、教師としても生徒としてもこんな授業が理想と思わせる、テンポ、深さ、情熱などに優れた心躍る講義だった。参加者からも大絶賛で、「こんな人にもっと早く出会いたかった」という賛辞もあった。是非とも多くの先生方に聞いていただきたい内容である。



【講義「青少年教育施設の役割。3日目の昼食後でも眠気を感じない講義だった。】

今回は、調整したものの3日間とも午後に講義が入ってしまう日程になってしまったにもかかわらず、どの講義や実習もたいへん好評であり、参加者のアンケートからも自然体験活動そのものや講師の先生方から学んだことへの感動が伝わってきた。履修認定試験でも全員が高得点であった。実習で積極的かつ主体的に取り組んでいる参加者の姿勢から、学校に何か具体的なものを持ち帰ろうという想いが伝わってきた。自然体験補助指導者への登録は96%を超えている。本所の他の事業にも参加してもっと様々なことが学びたいという声も聞かれた。

本事業は、申込み開始後15分で定員を超過するほど申込みが困難である。それでも受講したいとご苦労されて申し込むという参加者の意欲が高い事業である。講義と体験からのより深い理解を目的としていたが、それにとどまらず、自然体験活動に対する関心や意欲をより一層高め、学校教育に役立つ技能も高めようとする前向きな姿勢が感じられた。基本的な生活習慣に関するマナーも目立って規律正しい。様々な教育現場の問題で力量を疑問視され、その結果始まった教員免許状更新講習ではあるが、昨年度同様、教員の社会人としての質の高さにあらためて感心させられる事業であった。また、参加者の様子やアンケートの結果などから、講師やスタッフの願いと参加者の想いが合致した事業になったのではないと思う。

担当：企画指導専門職 山崎 栄寿